

学校法人自由学園に昨年12月、新しい施設として「自由学園みらいかん」(以下「みらいかん」)が完成、竣工式が行われた。主に就学前の子ども達や子育て世代、さらには放課後活動などに活用する施設として整備された木造2階建施設。材料に、学園の生徒達が受け継いで手入れをしてきた学校林のヒノキが使われている。

歴史あるキャンパス前に建築

東京都東久留米市にキャンパスを構える自由学園。学校建築に明るい人は、フランク・ロイド・ライトの設計で現在は重要文化財に指定されている明日館のオーナーとしてご存知のことだろう。東久留米市のキャンパスもライトの弟子である遠藤新・遠藤楽によるもので、初等部食堂をはじめとする5つの施設は東京都選定歴史建造物の指定を受けている。この10万㎡にもなるキャンパスに幼稚園(幼児生活団幼稚園)から大学(に相当する最高学部)までが設置されており、全員がこのキャンパスで学んでいる。

新しくつくられた「みらいかん」は、正門前から一直線にはしる学園通りに面してL字型に建てられた。明日館をはじめとする学内施設が連

話題を追って ①

学校と木と建築の物語 「自由学園みらいかん」

想できる縦ルーバーが正面にデザインされた木造2階建ての施設である。ここは、「ことりぐみ」と呼ばれる未就園児(2~3歳児)と保護者の集まり、幼稚園の預かり保育「かるがもグループ」そして初等部の放課後活動「JIYUアフタースクール」の活動場所となる予定で、この4月より本格始動するため、準備が進められている。

生徒が手を入れ育てた 学校林の木でつくる

「みらいかん」は、1階に調理施設を併設したホール、2階にプレイルームがつけられた。「ことりぐみ」と「かるがもグループ」が主に1階、「JIYUアフタースクール」が主に2階を活動場所にする計画で、子ども達が自らの手で触れて、感じ取るこ

とができるよう、自然素材である木を構造材、内装材としてふんだんに活用している。そして学園によると、使われている木材の多くは、学園の生徒達が植林し、手入れを受け継いできた学校林のヒノキだというのである。

学園は、昭和25(1950)年に埼玉県の名栗村(現飯能市)で植林活動を開始して以降、三重県紀北町、栃木県大田原市、ネパールカブレ地区などで、男子部高等科生と最高学部生が植林活動を行ってきた。この木材は、これまでも学園施設の維持管理の中で床材などに活用されることはあったそうだが、新しくつくる建物を学校林でまかなうのは初めて。学園によると使用木材のおよそ41%が学校林からで、目にみえるところに使われている木材のおよそ68%、手が触れる場所に使われている木材に限ればおよそ80%になるという。60年以上にわたる学園の活動の1つがすべての人の目にみえる形になったともいえる。

学園の歴史が形になるとき

12月16日には、竣工式を「みらいかん」で開催。学校法人自由学園の村山順吉理事長、高橋和也学園長



2階プレイルームで行われた竣工式



「みらいかん」外観。奥に向かってL字型をした木造施設